

4-3				
主題	介護学習会の実施プロセスにみる、職員教育のシステム化による効果			
副題	人材から人財へ！ 立ち上がれ介護の specialist			
キーワード 1	職員教育	キーワード 2	専門性向上	研究(実践)期間 17ヶ月

法人名・事業所名	社福) 友愛十字会 特別養護老人ホーム 砧ホーム
発表者(職種)	春田綾香(サブリーダー・介護職員)、松崎良平(介護職員)
共同研究(実践)者	木村真佑(サブリーダー・介護職員)、内山優(介護職員)

電話	03-3416-3164	FAX	03-3416-3494
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	砧ホームは平成4年に東京都世田谷区砧に開設した、入所定員60名、短期入所4名の従来型の特養です。東京都ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業、全国老施協介護 ICT 実証モデル事業のモデル施設として様々な介護ロボットや ICT 機器を運用し、専門性と生産性の高い最先端の取り組みを推進しています。
-------	---

<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>砧ホームでは、ビジョンとして学び愛、讃え愛、成長し愛の3つの愛を掲げ、事業計画として概ね毎月2回の勉強会を実施しており、介護職員のみならず他職種を含む全職員に必要な知識と技術を学び合い、成長を目指す取り組みを計画的に継続して行っている。しかし、この月2回実施している勉強会での内容は、多職種を含む全職員が対象のため、介護職員が日々の業務で不安に感じていることや困っていると感じている事をテーマとして取り上げることが少ない状況となっていた。そのため介護職員が不安に感じていることや困っていることについては個々に学ぶか、もしくは不安や困っていることがうやむやのまま時間が経過し職員の学びのチャンスを失ってしまっている状態となっており課題になっていた。そこで、介護職員が不安に思っていることや、困っていることを共有し学ぶ機会を作ることで、介護のプロとして専門性の高い組織へと成長することができるのではないかと考えた。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>目的：①職員教育のシステム化。②介護職員の専門性向上。</p> <p>仮説：介護職員としての専門性を高めるために、自ら学ぶ機会を構築することで、介護のプロとして専門性の向上を体感し、やりがいを実感できる職場環境へと変化することができるのではないかと考えた。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>令和4年2月、毎月開催されている介護サブリーダーが中心となって開催する介護職員会議で「介護職員の技術・知識を向上させるために施設が行っている勉強会とは別に、介護職員独自で学習会を企画したい」との意見が挙がった。同月、介護系の役職者が中心となり毎月開催しているリーダー会議にて検討を行い、介護職員会議が主となり介護学習会を実施していくこ</p>

とを決定した。介護学習会の実施にあたり介護職員へ普段の業務の中で不安に感じている事や困っている事についてのアンケートを実施し、①AEDの使い方、②認知症に関して、③救急対応、④ストレスマネジメント・アンガーマネジメントについて、の4つをテーマとして令和4年4月より年4回、3か月毎の介護学習会を実施することとなった。実施方法はテーマごとに3～4名のグループを作り、①「グループ内の介護職員が資料作成」または「作成した資料を基に、日程を調整しグループ以外の介護職員へ介護学習会を開催し講師として内容を伝達する」のいずれかに必ず関わること。②資料はパワーポイントで作成することのルールを2つ設定した。資料の作成や介護学習会の進行は各グループ内で計画し、実施状況については毎月の介護職員会議で進捗状況を確認して取り組みを実施した。令和4年度末の介護職員会議では介護学習会を実施後の感想や課題、令和5年度に向けて新たなテーマを抽出するためのアンケートを実施し、計画的に介護学習会を継続できる仕組み作りを行っている。

《4. 取り組みの結果》

本取り組みでは介護職員の学びたいという意見から、各職員が抱いていた不安や困っていることを共有し、介護職員会議が中心となって学びあえる仕組みを作ることができたと考えている。またアンケート結果から、夜間や日曜日の医務係が不在時の救急対応について、大幅な不安の軽減に繋がっていたことが分かった。加えて、全介護職員が資料作成に関わったことで、他職員に伝達できる知識と技術が身につく、介護のプロとして専門性の向上に繋がった。一方で改善点として資料を読み上げる学習会になりがちとの意見もみられたため、令和5年度の介護学習会では、職員参加型の実践的な介護学習会の実施を試みることにした。

《5. 考察、まとめ》

介護学習会にて作成した資料は、新人職員や実習生のオリエンテーションの際にも活用することができた。実習生へ資料を活用した結果、学校の授業ではなかった現場特有の学びが得られたとの意見があり、介護学習会実施前には想定していなかった副次的効果を見出すことができた。普段は特定の職員だけがパワーポイントを使って資料作成や、他職員への伝達を行っていたが、今回の取り組みを通して、全介護職員がパワーポイントでの資料作成や、作成された資料を元に他の職員へ介護学習会を開催することで、より多くの職員が、自らが中心となって学習会や発表などに関われる環境が整ってくるのではないかと考えている。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

倒れている人をみたら 心肺蘇生の手順 東京消防庁

アンガーマネジメントー怒りと上手につきあうための7つのステップ(2006) 早川書房 エドワード・レッカー著

改訂・認知症ケアの基礎(2007) 日本認知症ケア学会

《8. 提案と発信》

職場において介護職員同士で問題提起や解決は図られているだろうか。自施設で学ぶ環境があることで職員の意識が習慣化され介護の専門性が高められ、魅力的な職場環境を構築することが出来るのではないかと考えられます。介護職員同士で自主的に解決に向ける取り組みを行っていきませんか。